

COTO TSUSHIN

発行 / 滋賀医科大学同窓会湖医会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL 077-548-2074, FAX 077-548-2094
E-mail: koikai@koikai.org
http://www.koikai.org/

湖都通信 49号

Since 1987, Editor Takehiro Inui,
Co-editor Takashi Kadowaki,
Tetsunobu Yamane
印刷 / 昌栄印刷 2005.9.30

総会 2005年度 ご案内

日時;
2005年10月29日(土)
16:00 ~ 17:00
場所;
基礎講義実習棟2階
A講義室
6ページに資料掲載

* 総会出欠・委任状は
メールで!
koikai@koikai.org
出欠はがきは
10月26日(水)必着で!

会長交代について 「湖医会」会長 渡辺一良

秋一色になってきました。会員の皆様には忙しい日々をお過ごしのことと思います。

先の9月11日の衆議院選挙は、自民党の大勝に終わりました。国民の意思がこれほどはっきり出た選挙も近年珍しいのではないのでしょうか?

さて、滋賀医科大学同窓会湖医会においても、会員の意思を問われる時期がやってまいりました。この度の総会は、役員改選の年にもあたっています。小生も4期8年を続投してしまいました。さすがに人事の刷新をはかるべき時期にきた、と感じております。

年に一回開催される総会への出席者は、例年数人から数十人に限られており、委任状を含めてようやく定足数を満たすという状況が続いております。総会員数3000人の同窓会でありながら、なんと寂しいことでしょうか。

今後湖医会とはどうあるべきか、今会員の皆様にお尋ねいたします。先の総選挙のように、会員の皆様の意思を総会でお伝えください。一人でも多くのご出席をお待ちしています。遠方の方は、ホームページや総会出欠はがきをご利用のうえ、ご意見をお寄せください。

総会の日時は、10月29日(土)16時~17時。
場所は、滋賀医科大学内の基礎講義実習棟 2F A講義室。

総会に先立ち第4回湖医会賞受賞式並びに受賞講演を開催いたします。また当日は、若駒祭も開催中で、会員の方には模擬店利用無料チケットもご用意しています。ぜひお立ち寄りください。

第4回

『湖医会賞』受賞者決定!!

藤宮肇子氏と塩入俊樹氏に。

(詳しい記事は2~4ページ)

滋賀医大新教育プロジェクト

「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」採択

——先輩のノウハウを後輩へ

この度、文部科学省より、新たに、地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム(医療人G.P.)として募集があり、滋賀医大から総合診療部の三ツ浪教授を中心に、一般市民参加型全人的医療教育プログラムを申請していたところ、採択が決定しました。

当プログラムは、一般市民参加型の三つの医学教育プロジェクトを実施し、全人的医療を実現できる医師の育成を目指すものです。

プロジェクトA: 6年間一貫患者訪問実習

訪問診療を受療中の一患者およびその家族を、医学生が6年間にわたって継続的に訪問し、患者をとりまく環境を幅広くとらえながら全人的医療について学ぶ。

プロジェクトB: 全学年一般市民参加型面接医療実習

各学年の段階に応じて、一般市民による模擬患者との医療面接を経験させる。

プロジェクトC: 全人的医療・学年縦断グループ能動学習と市民・学生参加シンポジウムの実施

各学年2名、計12名からなるグループに能動学習を行わせる。さらに、「全人的医療を考える市民・学生参加シンポジウム」を年2回開催し、全人的医療の展開とそれを行うにあたっての問題点を討議する。

詳細は滋賀医科大学ホームページでもご覧いただけます。(トップページ医療人G.P.をクリックして下さい)
<http://www.shiga-med.ac.jp/hqkouhou/17gp/17gpindex.html>

会員のみなさまには、滋賀県医師会の協力の下、プロジェクトAにつき、協力依頼があると思います。その際にはご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

主な記事

| | |
|---------------|-------|
| 『湖医会賞』受賞者決定! | 2 ~ 4 |
| 抱負を語る / 幹事会報告 | 5 |
| 2005年度総会資料 | 6 |
| 学生のページ / 若駒祭 | 7 |

| | |
|---------------|----|
| 開業医 | 8 |
| 関東支部会報告記 | 9 |
| 看護学科交流会 | 10 |
| 西医体に優勝して | 11 |
| LITTLE WINDOW | 12 |

愛すること、夢見ること、そして創造すること



滋賀医大解剖学講座助教授 藤宮 峯子(医1期生)

第4回湖医会賞をいただくことになり、大変光栄に存じます。推薦をいただいた富山医科薬科大学教授の笹原正清先生には深く感謝致します。

本学を昭和56年に卒業してから、内科研修医、一般病院勤務、大学院、解剖学助手、助教授とひたすら走り続けた24年間でした。その間、仕事以外でも子育てやら家庭やらといろいろあったはずなのに、今となっては喉元過ぎればすべての苦勞が消滅してしまって、これから先どんなすばらしい人生が待っているのだろうとワクワクしている状況です。まるで解剖学を教えている20-21歳くらいの学生さんのフレッシュな気持ちが自分に乗り移っているようです。

タイトルの言葉は、高校3年の時にクラス会で人生で大切なことは何かと問われ、「愛することと創造することです！」と答えたことに由来します。それから30年たってもそのとおりだと思っています。研究者としてまた解剖学の教官として生きてきたこれまでの人生は、仕事を愛し、家族を愛し、同僚や友人を愛し、何年かに一度訪れる研究の上での快拳を同僚と共に喜び合い、そしてきっと近い将来、病気で苦しむ人々を救う画期的な治療法が見つけられるはず、とひたすら夢みて生きてきました。

今回の受賞でもっともうれしかったのは「研究と教育の両面での貢献」が認められたことです。31歳で解剖学の助手になった時に描いた将来の夢は、1、医学研究者として一流になりたい。2、若い人に尊敬されるような生き方をしたい。3、仕事も家庭も自分の生き甲斐も、どこかを犠牲にするのではなくトータルに最高級を追求したい、というものでした。教育に関しては明確なビジョンがありました。学生に向き合って教訓を垂れるのではなく、自分自身が理想に向かって努力している背中を見せることで若い人が何かを感じ取ってくればそれでよしと考えていました。自分の学生時代を振り返っても、たった一度しか会わなかった人から人生を変えらるくらい大きな影響を受けたりしたものです。きれいごとばかり言っていたのでは絶対に若い人の魂に訴えることは出来ません。自分も負けた、でも自分を信じてここまで這い上がって来たのだから、君もブチブチ文句を言っていないで頑張れと。精神論だけではなく、実際に実験室での試行錯誤の連続のドロくさい研究活動を見せたり、アメリカのラボに放り込んで生き馬の目を抜く競争社会で、世界中から集まった若者達がどう闘っているのかを見せることで、若い人達は確実に自分の生き方をつかんでくれるようです。

研究に関しては、いつも人との出会いがテーマに先行していました。こんなことが

実現したらすごいだろうな、あれを証明しよう、あの病気を何とか治さねばという熱い思いがぶつかり、じゃ、やるしかないじゃないの。実際に研究を遂行する為の金集め、マンパワー集め、技術面などの現実的な作業が山のようにあります。しかし、いったん夢を描いてしまった以上、しかも自分だけでなく仲間がいる以上、途中でギブアップする訳には行かないのです。不安な気持ちを「Yes, we can!」という呪文で打ち消して進みます。そしてわかったことは、全身全霊で一つの事に打ち込んでいると、お金も人もそして多くの人の助けも自然に得られるようになる事です。神さまが力を貸してくれているようで、天に向かって感謝です。まだまだ病気が治るところまでには研究成果が至っていません。遅々たる歩みですが、着実に進んできたという自信はあります。そして研究がうまく行った時には、無上の喜びを仲間と分かち合うことが出来ます。この喜びがあるからまた次の困難も乗り越えて行く事が出来るはずです。

愛して、夢みて、そして創造的な本当に価値のある仕事を残したい。Yes, I canです。そしていつも支えてくれている人達に、Thanks a lotです。

「湖医会賞」を 受賞して

新潟大学大学院医歯学総合研究科 精神医学分野助教授

塩入俊樹 (医7期生)



この度は、荣誉ある第4回湖医会賞(診療・福祉領域)に選ばれましたこと、まずこの場をお借りし、同窓会をはじめ、関連各位の皆様方に深く感謝致します。

ご存知のように、2004年10月23日午後5時56分、M6.8強、最大震度7強の大地震が新潟県中越地方を襲いました。避難者約10万人、損壊した住宅約12万棟、被害額約3兆円を超える大規模災害でした。新潟大学医学部では、新潟大学医歯学総合病院を中心として、被災直後から被災地に入り、様々な医療活動を行ってきました。私の所属する精神医学教室においても、教室員が一丸となって被災者の方々の“こころのケア”にあたり、震災後11ヶ月を過ぎた現在でも、中・長期的な“こころのケア”を実践しております。本賞は我々が行ってきた“こころのケア”活動に対して頂いたものですので、私個人というよりは当教室員全員に対するものと理解しております。但し、幸運であったのは、私が滋賀医科大学卒業生ということであります。改めて、このような賞を作ってくださいました諸先輩方に御礼申し上げます。

さて、少し実際に行ってきた“こころのケア”活動について述べてみます。でもその前に当時の新聞等を読み返してみましよう。“こころのケア”という言葉が至る所で紙面を賑やかしています。今改めて強く印象づけられることは、当時この言葉が乱用され、一人歩きし、あたかもオールマイ

ティのカードや全ての悪を蹴散らす呪文のように持て囃されていたということです。その結果どういことが起こったかという、心のボランティアと称する心無い輩が被災者の生活の場である避難所に無断で入り込み、傷口を舐め回すようなことをしたり、あるいは“こころのケア”をしたいという電話が全国から引切り無しにかかっていたりしました(県庁では対応に苦慮したそうです)。このようなことは氷山の一角です。もちろん、実際に“こころのケア”を担当していた私たちのところにも新聞記者やTV局の方が山のようにやってきました。しかし、どうでしょうか。“こころのケア”と言いますが、震災で全てを亡くして放り出された被災者の心を、それまで全く会ったことのない他人である精神科医や臨床心理士がマスコミが望むようにケアすることが可能なのでしょうか？答えはNoでしょう。やはり、このような震災の中ではまず被災者同士の“こころのケア”が重要なのです。特に今回の被災地は、阪神・淡路大震災の時とは異なり、住民間の結びつきが強く、他人が入り込みにくい日本古来の村社会が残っている山間地域ですので、なお更です。では、我々は何をし、何ができたのでしょうか。

我々が行ってきたことは、一言で言えば、“裏方”です。マスコミが謳い上げるような観念的なものでは決してないのです。表に出ず、被災者の方がSOSを出した時にすぐ適切な対応が取れるようなシステムの構築、そして実際の迅速な対応に心がけました。具体的には、まず震災初期の活動としては、担当地

域に点在していた130箇所以上にも及ぶ避難所への巡回・診療、“こころのケア診療所”の開設、県外の医療チームとの連携を図るための合同カンファレンスの開催などです。特に“こころのケア診療所”では、震災前から精神疾患をお持ちの患者さんへの処方継続や、症状悪化時の適切な対応(被災地域には精神科専門病院がないので地域外施設への入院等)に重点を置きました。更に、中・長期的活動としては、地域医療機関と連携し、仮設住宅に住む被災者の方々への診療、健康度調査票によるハイリスク者のピックアップ(その情報を現地のスタッフに活用してもらう)、被災者の方を対象とした精神疾患の啓蒙のための小セミナーの開催、そして、地域行政職員を対象とした講演会の開催などです。物の本によると、震災後6ヶ月以降の“こころのケア”が最も重要だとされています。震災後11ヶ月を過ぎた今、我々にできる限られたことをしっかりと実践していきたいと思っております。

聞くところによると、授与式はちょうど震災後1年を過ぎた10月下旬とのこと。学生時代には、若鮎祭の時には「秋休み」と称して必ず実家に帰っていた怠け者が、卒業後18年以上経って若い後輩の方々とお話できる機会を得るとは、「人生ってわからないなあ」と感慨に耽り、また不思議な縁を感じる今日この頃です。

湖医会賞

選考委員会報告

総評

今回は研究領域および臨床・福祉領域に各1名、計2名の候補者が推薦されました。それを受け、選考委員も受賞候補者の分野に即した先生方にお引き受けいただきました。

また選考委員には、予め候補者の資料を配布し、熟読いただき、選考委員会でスムーズな討議に入れるよう備えていただきました。

その甲斐あって、各委員の方々は、見解や意見を活発に述べ、候補者の業績に対する疑問が出ると、待機している推薦者に委員長が代表で電話質問(第2回から推薦者が選考委員会に赴き、推薦理由を述べることになっていましたが、今回の推薦者は2名とも遠方のため)、回答を得る等、スムーズに選考は進行しました。その結果、2名の『湖医会賞』授与を決めました。

そしてこの選考結果は、幹事会で承認され、2名の『湖医会賞』授与が正式に決定いたしました。

選考委員は次の通り(敬称略)
 委員長：渡辺一良(会長)
 委員：野嶋光洋・島田司巳
 (以上特別会員)
 ; 中島滋美
 (「湖医会」役員)
 ; 青木裕彦・石田展弥
 (以上会員)



推薦者へ電話取材



選考理由

2名の選考理由は次の通りです。

藤宮峯子氏(医1期生)は、「研究領域」と「教育領域」での授賞となった。研究論文は国内外2003年Nature Medicine、2004年PNASで高い評価を受けていて、なおかつ多数の研究テーマが医学研究界に受け入れられているようにその信頼性も高い。またその研究の多くが学内の他科との共同研究で行われ、滋賀医大全体の研究の発展にも大きく貢献している。

その一方で、多くの院生・研究生の指導にあたり、50名以上の学位取得者並びに海外へ16名のポストドクを輩出している。また学生への教育も熱心で4回生の海外自主研

第4回『湖医会賞』授与式及び受賞記念講演会

日程：2005年10月29日(土)
 場所：基礎講義実習棟2F A講義室

<授与式>

13:30 ~ 賞状・副賞20万円授与

<受賞記念講演会>

14:00 ~ 藤宮峯子氏 講演

演題：愛すること、夢みること、そして創造すること

—研究者人生20年で思うこと—

14:45 ~ 塩入俊樹氏 講演

演題：新潟県中越震災におけるこころのケア活動

15:30 閉会

多数ご参加ください

修プログラムでは、藤宮先生の紹介で過去4年間で17名の学生が海外の研究室で学んでいる。以上のように研究・教育、両面での実績と熱意を認め決定した。

「臨床・福祉領域」での授賞が決まった塩入俊樹氏(医7期生)は、2004年10月23日の新潟中越大地震において、被災者の方々の「こころのケア」の中心的役割を担った。パニック状態の被災地の中で、システム構築「こころのケア診療所開設・130力所の避難所の巡回診療等」をするということは大変意義がありすばらしいことである。

活動期間が1年足らずとまだ短期間なので結果が出てからの授賞が望ましいという意見もあったが、『精神科』を受け入れにくい土地柄とも言われていた地域での活動であったことを考慮し、また今後この活動を継続していくであろうという期待を込め、授賞することに決定した。

(委員長 渡辺一良)

その後、医大の優等生になっただけではありませんが、今日に至るまで、疑問点に興味を抱きそれを解決する、また、今を生きる」といった信念をもって過ごしてきました。このような私の生き様に賛同してくれる滋賀医科大学の(たぐさん)いて、金沢医科大学の

申上げます。その1年の留年中に、故横田教授から、古家君の席は「こだよ」と、そして教壇の目前で授業を受け、それによって医学に対する動機づけが自分の中に生まれたわけです。ここに、再度、故横田教授に深謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

故横田敏勝教授から断念するよう説得された頃でした。その1年の留年中に、故横田教授から、古家君の席は「こだよ」と、そして教壇の目前で授業を受け、それによって医学に対する動機づけが自分の中に生まれたわけです。ここに、再度、故横田教授に深謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

本年6月1日付けにて、金沢医科大学内分秘代謝制御学部門教授に赴任いたしました昭和59年卒の古家大祐(こや だいすけ)です。滋賀医科大学が開学された当時の1期生から5期生の先生方はよくご存知かと思いますが、学生時代は滋賀医大の「あばれんぼ」として、また、それに自分の生きがいも感じ、日々を過ごしていたものです。しかし、人間変わると思えば変わるものです、年を経るにつれ周りが見えるようになっていったわけです。特に、転機を迎えることになったのが、学2から学3への進級(当時は学2から学3の留年はありませんでした)を故横田敏勝教授から断念するよう説得された頃でした。その1年の留年中に、故横田教授から、古家君の席は「こだよ」と、そして教壇の目前で授業を受け、それによって医学に対する動機づけが自分の中に生まれたわけです。ここに、再度、故横田教授に深謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。



「明日を照らす医学人」を目指して

金沢医科大学内分秘代謝制御学部門 教授

古家大祐 (医4期生)

略歴

- 1984年3月 滋賀医科大学医学部医学科 卒業
- 1992年4月 滋賀医科大学医学部附属病院第三内科 助手
- 1994年12月 ハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センター 研究員
- 2004年3月 滋賀医科大学医学部附属病院内科 講師
- 2005年6月 金沢医科大学内分秘代謝制御学部門 教授

E-mail: koya0516@kanazawa-med.ac.jp

TEL: 076-286-2211

臨床研修医を、あるいは大学院生を希望してくれる滋賀医大出身者とともに働けることを、北陸金沢の地より期待しています。今後は、金沢医科大学において、これまで滋賀医科大学旧第3内科にて指導を受けてきました糖尿病に関する臨床経験をさらに研磨し、また、それら経験に基づいた研究によって、糖尿病の臨床において最も重要課題とされている糖尿病血管合併症、特に腎症を阻止し得る新たな診断法、および治療法の開発を推進していくつもりです。また、教育面では、金沢医科大学の講義、臨床実習、教育研修プログラムの積極的取り組み、金沢医科大学の学生諸君とともに、「明日を照らす医学人」となることを目指してまいります。今後とも、滋賀医大出身者の一人として、皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

議事録 第41回幹事会 兼 2004年度第3回常任幹事会議事録 (2005.9.16)

主に2005年度の総会に向けての話し合いが行われました。幹事会で承認された総会用の資料の主なものを次ページに掲載いたします。

- 1、総会に向けて
 - (1) 2004年度事業報告を承認 (資料掲載)
 - (2) 2005年度事業計画を承認 (資料掲載)
 - (3) 2004年度会計報告を承認 (資料掲載)
 - (4) 2005年度予算案を承認 (資料掲載)
 - (5) 2004年度特別会計報告を承認 (資料掲載)
- 2、予算案について

今年度財政が緊迫している。理由としては会員の同窓会年会費滞納と広告収入(名簿)の減少である。このことから次のことが検討された。

 - ・一般VISAカードからの会費引落サービスを会員へ呼びかける
 - ・同期会開催時に幹事から会費の支払いを呼びかけてもらう
 - ・定期刊行物の発行回数・方法を見直す
- 3、奨学金について・・・運営委員会からの提案を検討
 - (1) 第3回「湖医会」奨学金の奨学生3名が決定
 - (2) 第1回「藤原よしみ」奨学金の奨学生3名が決定
 - (3) 「湖医会」奨学金の対象学年や両奨学金の同時貸与をどうするかなど、今後検討することになった
- 4、『平成17年度版会員名簿発行』について

従来通りの印刷による出版は資金的に無理であるため、CDROMで作成する案がだされた。前向きに検討することになった
- 5、『湖医会賞』授与について
 - (1) 第4回受賞者は次の2名
 - ・『教育領域』、『研究領域』の藤宮峯子氏(医1期生)
 - ・『診療・福祉領域』の塩入俊樹氏(医7期生)
 - ・授与式・講演会は

日時: 10月29日(土)・午後1時30分～3時30分
場所: 基礎講義実習棟2F A講義室
- 6、奨学金の会計報告が承認された(下記参照)
- 7、その他
 - (1) 卒後20年医5期生同期会が9月10日に行われ、“大学ミニツアー”や“ビデオレター”などユニークな企画が催された
 - (2) 「湖医会」の法人化を再度検討することになった

<奨学金の会計報告>

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------------|-----------|---------|-----------|
| 寄附 | 4,851,298 | 振込料金 | 9,580 |
| 奨学金返還 | 48,000 | 奨学金貸与 | 2,104,260 |
| 特別会計より | 960,000 | 印字サービス代 | 9,900 |
| 「湖医会」より事務費補助 | 9,300 | 残高証明 | 500 |
| | | 繰越金 | 3,744,358 |
| 合計 | 5,868,598 | 合計 | 5,868,598 |

2005年度 滋賀医科大学同窓会総会 主な資料

2004年度事業報告

- 湖都通信の発行 46号～48号
- 勢多だよりの発送 65号～67号
- 学生への対応
 - 寄附を伴う活動
 - 若鮎祭と『湖医会賞』講演会の共催。実行委員会へ寄附¥200,000
 - 卒業生祝賀会を主催。寄附¥102,369・新入生歓迎委員会へ寄附¥100,000
 - 看護学科卒業生と学生の交流懇談会の援助¥50,000
 - その他の活動・・・奨学金/新入生オリエンテーションで同窓会の説明をする/特別な理由による就学困難な準会員を補助する/関東支部会参加への案内
- 大学への対応
 - 寄附・・・
 - 大学創立30周年祝い金¥1,000,000/滋賀医学国際協会へ寄附¥100,000
 - 会議に参加・・・
 - 関連病院長会議/滋賀医学国際協会/経営協議会に参加/学長の諮問機関に参画
 - 大学幹部との交流・・・学長と意見交換
 - 行事に参列・・・卒業式/入学式
 - 協力・・・医大ニュース、滋賀医学国際協会ニュースの発送(費用は湖医会負担)
 - 要望のある各部署へタックシール等の提供(所定の手続きを踏んでもらう)
- 支部会への援助・・・関東支部会開催、¥100,000の援助
- 湖医会カードへの援助・・・年会費負担@¥1,312×71名分
- 同期会の開催
 - 卒後20年同期会・・・医4期生、¥100,000の補助、会の残金¥297,690は奨学金に寄附
 - 卒後10年同期会・・・医14期生、¥100,000の補助、会の残金¥108,100は奨学金に寄附
 - 卒後5年同期会・・・看3期生、¥50,000の補助、会の残金¥38,580は奨学金に寄附
- 湖医会賞
 - 第3回湖医会賞授与式・講演会・・・若鮎祭と共催
 - 第4回湖医会賞受賞者決定・・・選考会にて
- 奨学金
 - 湖医会奨学金
 - 第2回奨学生の追加募集案内・・・1名決定/第3回奨学生募集・・・3名決定
 - 藤原よしみ奨学金
 - 第1回奨学生募集・・・3名決定
 - 「湖医会」奨学金の対象学年や両奨学金の同時貸与をどうするかなど、今後検討することになった
- 一般VISAカードからの会費引き落としへの勧誘・・・28名が同意(05.9.27現在)
- その他

2005年度事業計画

- 湖都通信の発行 49号～51号・・・財政難により2回/年にすることもあり得る
- 勢多だよりの発送 財政難により1回/年にすることもあり得る
- 学生への対応
 - 寄附を伴う活動
 - 若鮎祭と『湖医会賞』講演会の共催。実行委員会へ寄附¥200,000
 - 卒業生祝賀会を主催。寄附¥100,000
 - 新入生歓迎委員会へ寄附¥100,000
 - 看護学科卒業生と学生の交流懇談会の援助¥50,000
 - その他の活動・・・奨学金/新入生オリエンテーションで同窓会の説明をする/特別な理由による就学困難な準会員を補助する/関東支部会参加への案内
- 大学への対応
 - 寄附・・・
 - 滋賀医学国際協会へ寄附¥100,000
 - 会議に参加・・・
 - 関連病院長会議/滋賀医学国際協会/経営協議会に参加/学長の諮問機関に参画
 - 大学幹部との交流・・・学長と意見交換
 - 行事に参列・・・卒業式/入学式
 - 協力・・・医大ニュース、滋賀医学国際協会ニュースの発送(費用は湖医会負担)
 - 要望のある各部署へタックシール等の提供(所定の手続きを踏んでもらう)
- 支部会への援助・・・関東支部会開催、¥100,000の援助
- 湖医会カードへの援助・・・年会費負担@¥1,312・家族会員@¥420
- 同期会の開催
 - 卒後20年同期会・・・医5期生、¥100,000の補助
 - 卒後10年同期会・・・医15期生、¥100,000の補助
 - 卒後5年同期会・・・看4期生は開催しない
- 湖医会賞
 - 第4回湖医会賞授与式・講演会・・・若鮎祭と共催
 - 第5回湖医会賞受賞者決定
- 奨学金
 - 湖医会奨学金
 - 第4回奨学生の決定
 - 藤原よしみ奨学金
 - 第2回奨学生の決定
 - 「湖医会」奨学金の対象学年や両奨学金の同時貸与をどうするかなど、今後検討することになった
- 一般VISAカードからの会費引き落としへの勧誘・・・
 - 会費納入率が低下しているため、財政難になる可能性がある。引き続きVISAカードからの引落サービス呼びかけていく
- その他
 - 財政難の対応策について・・・同期会の開催時に学年幹事より「同窓会年会費」の支払いを呼びかけてもらう
 - 「平成17年度版会員名簿」をCDで作成し、コストダウンする案が提案され、検討することになった
 - その他

2004年度会計報告 (2004.9.1～2005.8.31)

| <収入の部> | | <支出の部> | |
|------------|------------|-----------|------------|
| 前期繰越 | 4,216,167 | 事務費 | 725,347 |
| 本年度会費(郵便局) | 5,570,740 | 会議費 | 75,538 |
| ”(滋賀銀行) | 2,362,609 | 卒業記念品 | 163,401 |
| カード提携手数料 | 80,162 | 渉外費 | 37,314 |
| 広告料 | 500,000 | 備品 | 0 |
| 協賛金 | 80,000 | 定期刊行物 | 2,253,692 |
| 雑益(利息) | 35,808 | 通信費 | 453,443 |
| | | 寄付金 | 450,000 |
| | | 人件費 | 4,198,752 |
| | | 退官教授祝賀費 | 30,000 |
| | | 会員慶弔費 | 49,192 |
| | | カード補助金 | 6,508 |
| | | 同期会 | 318,289 |
| | | 支部組織補助金 | 72,600 |
| | | 湖医会賞 | 520,283 |
| | | 卒業祝賀会 | 102,369 |
| | | 同窓会館設立準備金 | 0 |
| | | 記念事業等積立金 | 0 |
| | | 名簿積立準備金 | 0 |
| | | 調査費 | 0 |
| | | 雑費 | 17,937 |
| | | 開学30周年寄付 | 1,000,000 |
| | | 予備費 | 131,618 |
| | | 次期繰越 | 2,239,203 |
| 計 | 12,845,486 | 計 | 12,845,486 |

2005年度予算案 (2005.9.1～2006.8.31)

| <収入の部> | | <支出の部> | |
|--------------|------------|-----------|------------|
| 前期繰越 | 2,239,203 | 事務費 | 600,000 |
| 本年度会費(郵便局) | 5,600,000 | 会議費 | 100,000 |
| ”(滋賀銀行) | 2,000,000 | 卒業記念品 | 180,000 |
| カード提携手数料 | 80,000 | 渉外費 | 100,000 |
| 広告料 | 1,300,000 | 名簿 | 2,600,000 |
| 特別会計(名簿積立)より | 703,108 | 備品 | 100,000 |
| | | 定期刊行物 | 1,600,000 |
| | | 通信費 | 500,000 |
| | | 寄付金 | 450,000 |
| | | 人件費 | 4,200,000 |
| | | 退官教授祝賀費 | 0 |
| | | 会員慶弔費 | 30,000 |
| | | カード補助金 | 100,000 |
| | | 同期会 | 100,000 |
| | | 支部組織補助金 | 100,000 |
| | | 湖医会賞 | 500,000 |
| | | 卒業祝賀会 | 150,000 |
| | | 同窓会館設立準備金 | 0 |
| | | 記念事業等積立金 | 0 |
| | | 名簿積立準備金 | 0 |
| | | 調査費 | 30,000 |
| | | 雑費 | 50,000 |
| | | 予備費 | 400,000 |
| | | 次期繰越 | 32,311 |
| 計 | 11,922,311 | 計 | 11,922,311 |

2004年度会特別計報告 (2004.9.1～2005.8.31)

1. 記念事業等積立金

| 収入の部 | 支出の部 | | |
|-------|---------|----------|---------|
| 前年度繰越 | 796,018 | 残高証明書手数料 | 315 |
| 預金利息 | 6 | 次年度繰越 | 795,709 |
| 計 | 796,024 | 計 | 796,024 |

2. 同窓会館設立準備金

| 収入の部 | 支出の部 | | |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 前年度繰越 | 3,104,121 | 残高証明書手数料 | 315 |
| 預金利息 | 26 | 次年度繰越 | 3,103,832 |
| 計 | 3,104,147 | 計 | 3,104,147 |

3. 名簿発行準備金

| 収入の部 | 支出の部 | | |
|-------|---------|----------|---------|
| 前年度繰越 | 703,417 | 残高証明書手数料 | 315 |
| 預金利息 | 6 | 次年度繰越 | 703,108 |
| 計 | 703,423 | 計 | 703,423 |

日ごとに秋の深まりを覚える今日この頃、先輩の皆様にはますますご健勝のことと存じ、お慶び申し上げます。医療をとりまく環境がめまぐるしく変化するなか、そのなかで何を学んでいくべきなのかを考え、われわれ学生一同は先輩方の伝統を受け継ぎ、更なる飛躍を遂げるよう頑張っております。

さて、今年も若鮎祭の季節が近づいてまいりました。昨年30周年を終え、さらに独立行政法人化という大きな節目を迎え、今年度から大きく変革を遂げて新しい若鮎祭をスタートさせたいと考えております。そこで、大学関係者はもちろんのこと、地域の方々も参加し、ともに楽しめるような学園祭にしたいという思いから、「この指とまれ！～滋賀医大だよ 全員集合！～」というメインテーマを掲げました。滋賀医科大学が、周辺の住民のみならず、さらには県内の産業経済界などを含めた地域とのつながりを一層深める「架け橋」になればと考えております。

また、特別講演会として、第4回『湖医学会賞』受賞者の藤宮峯子先生と塩入俊樹先生による受賞記念講演会を、滋賀医大同窓会「湖学会」との共催で企画しております。

一人でも多くの先輩方にお越しいただき、変革を感じてもらえるよう努力しております。お忙しい中とは思いますが、ご家族、ご友人などを是非お誘いあわせの上、足を運んでいただきたいと実行委員一同心から願っております。

若鮎祭実行委員長 八木典章

第4回『湖医学会賞』受賞記念講演会 10・29(土) 場所:基礎講義実習棟 2階 A講義室

『湖医学会賞』とは、研究や学生等の教育、地域医療等の臨床・介護福祉その他領域で優れた実践を行い、医学および医療・福祉の向上に貢献した「湖医学会」会員に贈られるものです。当日は授与式に続いて、受賞者による記念講演が行われます。同窓生多数のご参加をお待ちしております。

『湖医学会賞』授与式 13:30～

『湖医学会賞』受賞記念講演

14:00～ 『教育領域』・『研究領域』 藤宮峯子氏(医1期生、滋賀医大 解剖学講座助教授)
演題:「愛すること、夢見ること、そして創造すること
～研究人生20年で思うこと～」

14:45～ 『診療・福祉領域』 塩入俊樹氏(医7期生、新潟大学大学院医歯学総合研究科 精神医学分野助教授)
演題:「新潟県中越震災におけるこころのケア活動」

メイン企画 10・29(土)/30(日)

展示 場所:体育館

1. 医学展 『アルコール鑑定団～あなたの体質調べます～』 アルコールパッチテストを実施
『あなたの美をたもちます』 美肌対策(肌年齢検査) など
2. 医局展 『滋賀医科大学の診療科、研究室の紹介』
3. 看護体験 『妊婦体験、車椅子体験』

講演会 場所:看護棟 1階 第1講義室

10・30(日) 11:00～ 和田秀樹氏「医者を目指す君たちへ」

韓国映画上映 場所:看護棟 1階 第1講義室

10・29(土) 13:00～ 「恋する神父」 主演:クォン・サンウ

15:15～ 「僕の彼女を紹介します」

ステージ企画 10・29(土)/30(日)

| 29日 | 30日 |
|---------------------------------|-------------------------|
| 10:30～12:00 King of Athlete | 11:00～12:00 ×クイズ |
| 12:00～12:30 模擬店CM | 18:00～19:30 BENNIE Kライブ |
| 12:30～14:00 早食いバトル | 20:00～ フィナーレ |
| 14:00～17:00 軽音ライブ | |
| 17:00～18:00 Miss.滋賀医・Mr.滋賀医 | |
| 18:00～20:00 King Of Entertainer | |

厳しいけれど

やりがいがあるよ!

開業生活

— Part 1 —

きょうかわ整形外科クリニック 院長 京川 進 (医13期)



私が滋賀医大を卒業してはや12年が過ぎました。同期生や卒業生諸兄の方々お元氣でお過ごしでしょうか。私も整形外科のクリニックを開業し1年半あまりが過ぎました。近々開業を考えておられる方や、興味はあるけどタイミングがわからないという方に参考になればと思い、開業にいたる経緯やその後の経過について述べてみたいと思います。

かくいう私は神戸大学工学部を卒業後一般企業に就職して退職し、医大を再受験した出直し組のひとりです。1993年、滋賀医大を卒業後、地元の奈良医大の整形外科教室に入局しました。その中で関連病院を1~2年でローテーションしていったわけですが、組織の一員として働くことには向いていないと感じていました。

医療業界の動向や、将来的なことを考えると結論はただひとつ、早くから開業して早く地盤を確立して経営的に安定させることです。そのために当直のバイトを平日、土曜祝日、盆、正月等に関係なくやりました。幸いにも体だけは丈夫で、何日当直が続いても平気でした。健康であるということは何事にも代えることのできない財産だと実感しました。それで開業資金は順調に蓄えることが出来ました。目標を持ってやっていることだったので迷うこともありませんでした。

7年目で整形外科専門医の資格を取得後、医局を離れて堺市内で、新規のクリニックの立ち上げに携わりました。ここは

内科や皮膚科、透析なども備えた大規模なクリニックで、私は整形外科の唯一の常勤として一からの診療体制のスタートでした。実際自分のクリニックを開業するときにはこのときの経験が大変役に立ちました。ここでは1年程働きました。ついで民間の200床程度の病院に一人医長として就職しました。ここには以前から整形外科の非常勤として勤務しており、近くの整形外科の開業医に手伝ってもらって人工骨頭などのオペもしていました。この開業医というのが偶然再会した同級の旧友で、医者としてのキャリアは数年上です。おかげでわずらわしい上下関係なく手術手技を磨くことができました。ここで3年ほど一般整形外科の外来や手術手技を研鑽し、自分なりに整形外科開業医としてやっていけると自信をもつことができました。手術も執刀医として外来オペから関節鏡、人口関節etc.とそれなりの数をこなし、手術には教室の先輩にも指導に来てもらって実力を高めることもできたので、開業して外科医としてメスを手放すことに対する淋しさにもいちおうの終止符を打つことができました。

そして2004年1月、大阪市内都島区で整形外科のクリニックを開業しました。この場所は開業コンサルタントがいくつか持ってきた物件のひとつで、別に都島に地縁はなく、いわゆるパラシュート開業というものです。ここを選んだのは、知り合いの先生にもみてもらって、ここなら普通にやればそんなに失敗することはないだ

ろうと勧められたからです。

クリニックは、高倉商店街という今ではさびれてしまった商店街の中のマンションの一階にあります。中の広さは約50坪でクリニックの前には車が3台程度駐車出来ます。ただ現在では商店街も半数近くは廃業したり、住宅にかわってしまっています。クリニックのある周辺はいわゆる下町といった風情の町並みです。これと対照的に幹線道路をはさんだ向こう側は、かつてカネボウの本社と大工場群があったところで、現在ではベルパークシティという大マンション群のある住宅エリアとなっています。当初は開業はしたものの、患者さんは来てくれるのか、本当にうまくやっていけるのだろうか不安感はずきまっとしていました。

幸いなことに順調に患者さんも増えてきて現在1日の外来の総数は120人ほどになりました。うちのクリニックの特徴はその患者層にあります。やはり近所のお年寄り層が一番の患者層です。

(次号に続く)

きょうかわ整形外科クリニック



〒534-0011

大阪市都島区高倉町2-8-9

電話：0773-76-6232

<http://www.miyakojimaku.com/kyokawaseikeiga/>

関東支部会報告記 vol. 7



第7回の関東支部会は8月6日(土) 東京品川プリンスホテルで行われました。今年も医8期生の河崎幹雄氏が中心となって進めてくださり26名が参加しました。今年は「学生さんの参加」を企画して、昨年の支部会の時にすでに開催日程を決め、「湖医会」も早くから学生さんに呼びかけました。その甲斐あって(?)医学科5回生の4名が参加。例年にもまして盛会となったようです。毎年行われる「ミニ講演会」ですが、今年は元滋賀医大講師の山川正信氏(現大阪教育大学教授)が講師として招かれ、参加者は学生時代より熱心に聞き入りました。

来年も学生参加大歓迎! だそうです。夏に臨床実習や帰省で東京近辺にいる予定の医学科・看護学科の学生さんはぜひ参加してみてください。先輩が暖かく迎えてくれます! 会費無料!!



懐かしい顔、老けた顔、変わらない顔 ~関東支部会に参加して~

大阪教育大学 教授 山川正信 (元滋賀医大講師)

滋賀医大を離れて9年目になりますが、それと期を合わせたかのようにスキー部OB10数名とは毎年5月4日にOB会を兼ねたゴルフコンペを瀬田で行っています。毎年、会っているにもかかわらず、酒が入ると決まって学生時代の話題に話が弾みます。4月に2期生の加藤君から電話があり、てっきりOB会の確認のためと思っていたら、今年の関東支部会で「講演」を、という依頼の電話に正直ビックリしました。臨床で活躍しているOB諸兄に公衆衛生の話をしてもらいたいと思いつつ、7月末には1週間、学会でオーストラリアへ出かけ、帰国後、直前の2日からは岡山大学保健学科で1日5コマ3日連続という受講する学生にとっても地獄のような集中講義へ出かけ、翌々日、不安を抱きつつ上京しました。当日、品川プリンスホテルの会場へ着くと、本当に懐かしい顔、顔・顔・・・で、タイムスリップした思いでした。中には、わざわざ名古屋から駆けつけてくれた関東支部会初参加の井戸田君(1

期生)や関東支部会第1回以来20数年振り2回目という西尾先生(元第1生理学講座助手)とは本当に懐かしい再会でした。また、馬場(中嶋)直子君(3期生)も「先生の名前を見たから、懐かしくて!」と、3人の子持ちには見えない、学生時代のままの笑顔で迎えてくれました。講演は「公衆衛生からヘルスプロモーションへ」のテーマで、これからの健康づくりについて話しました。講演後、循環器疾患の一次予防に取り組んでいたりと、県の公衆衛生行政に携わっていたり、校医として学校でヘルスプロモーションに関わっていたりと、OBの多くが一次予防に関心を持ち取り組んでいることを知り、当初抱いていた不安は払拭されました。翌日は河崎、下田、中山、加藤、大橋と私の6名で「夢の島」でゴルフを楽しみました。本当に懐かしい充実した楽しい時間を設定してくれた幹事の河崎君と出席者の諸君には心から感謝します。

参加学生の感想

医5回生 田中恭子

去る8月6日、品川プリンスホテルにて開催された関東湖医会に参加させていただきました。首都圏で活躍されている先生方の集まりと聞いていたので、多少緊張して会場に向かいましたが、先輩方が気さくに声をかけてくださり、とても温かい雰囲気でもて迎えていただきました。臨床研修先についてなど、なかなか実際の情報が得られにくい中で、現場の先生方から直接お話を伺える機会は大変貴重なものだと思います。また、出身大学から離れた地域で、世代を越えた交流があるということに心強さを感じました。もともと、この会には、後輩たちが首都圏での就職を希望した際の情報提供の場という意味合いがあると伺いました。また機会があれば、周囲の友人にも声をかけて、大勢で参加させていただければと思います。楽しい時間をありがとうございました。

写真中央が、田中さん
右が、林さん



医5回生 林 由布子

8月6日、品川で行われた湖医会の関東支部会に参加させていただきました。私は関東での就職も将来の選択の一つに加えているため、関東で活躍されている先輩である先生方のお話を伺えるこのような機会は大変ありがたいものでした。さまざまな科、さまざまな職場で働かれている先生方のお話は面白く、そして、医者として、人間としての将来にとってもためになるものでした。サークルに所属していない私にとって、この関東支部会は先輩方の存在のありがたさ、頼もしさを実感できたよい機会となりました。ありがとうございました。



山川先生の講演



先輩の話聞き入る



久保田氏に教授就任のお祝



世話役の河崎氏

先輩、おしえてくださ~い! / 少しでも後輩に役立つなら・・・

この企画は「湖医会」がサポートしています・・・

看護学科生の、進路の参考になればと企画された「卒業生と在学生の交流懇談会」。自分たちの経験を少しでも後輩達に役立てて欲しいと例年のように卒業生が参加してくれました。毎年4回生の担当学生が、忙しい実習の合間を縫って準備作業をしています。今回は3回生の参加もありました。早い時期から情報を得て進路の決定に役立てばいいですね。

スタッフのみなさん



上段左から：合田和子・本田裕子・園田奈央・宮原楓子・植村珠名・小林美穂
下段左から：曾川直美・松波あき・吉田かおる・遠藤賢子・林明子・飯村綾子
(敬称略)

私も刺激を受けました



兵庫県立こども病院
文字智子(看3期生)

交流懇談会は私が卒業してから生まれたいものであり、初めて参加させていただいた。講演する卒業生の職種や勤務施設は多様で、在学生の方の参加人数は多く、卒後への関心の高さや、この会を活用する姿勢が定着しつつあるのを感じた。他の領域で活躍される卒業生の方の話や在校生の方との会話は、今の自分を見つめなおすよい機会となり、卒業生にとってもよい時間であったと思う。

この会がより充実していくことを期待する卒業生の一人として、提案したいことがある。今回の交渉段階や当日の会では、いくつか準備上の不備があり、幹事の方が卒業生に謝罪される場面が何度かあった。私自身、学生時代に外部の人と連絡・調整する機会が少なかったことを思うと、この会の準備の進め方について、実際困ったことや改善案を含め、より具体的に次年度に引き継いでいける、とよいのではないかと感じた。

互いの経験をそれぞれ生かし、卒業生と在学生の輪が今後より広がっていくことを期待している。

看3回生

辻 沙央理



先輩の話聞いて不安が和らぎました

今回の交流会に参加して、良い刺激を受け将来のビジョンが以前よりははっきりと意識できました。

3回生はちょうどカリキュラムの変更で単位が10単位以上多いうえ、実習日程も今までと違うので8月以降の予定が分からない状態です。そんな中、授業中先生方から実習の厳しさや就職難、国家試験98%の合格目標などを聞き、情報が少ない分不安が増幅していました。

しかし今回卒業生のお話を伺って、同じように不安を抱き悩みながらも乗り越えてこられたことや、現在様々な職場で活躍されている様子を知ることができ、不安が和らぎました。それと同時に、実際進路に向かって頑張っている4回生の姿をみて、とてもよい刺激になりました。

お忙しい中私たちのためにご参加いただいた卒業生の方々をはじめ、ご協力してくださった方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

看4回生 吉田かおる



4回生だけでなく下学年の早い時期に
情報提供ができてよかった

2005年6月、卒業生との交流会を開催し、4回生以外にも多くの在学生の参加があったことを嬉しく思っています。私は4回生になり、就職活動や卒業研究・国家試験といったこれから取り組まねばならないことに漠然と不安を感じながらも実習に追われながら過ごしてきました。

今回の交流会では、講演してくださる方々が卒業生であることで、どのように学生生活を送られていたのか、進路を決定されたのかといったことを今の自分と重ねて考えることができました。さらに卒業生の方々が自身の経験をともに、それを振り返り、在学生にアドバイスしてくださったことでこれからの見通しを立てることができました。4回生だけでなく他学年の方にも早い時期にこういった情報を提供できたことで彼らの主体的な学生生活の手助けとなれば嬉しく思います。

このような有意義な催しができることを有り難く思つともにお忙しい中参加してくださった卒業生の方々、そして交流会開催にあたりご協力いただいた「湖医会」、後援会、そして先生方に、感謝いたします。

西医体で優勝して

端艇部

悲願の総合優勝

キャプテン 若宮卓也 (医4回生)

2005年8月5日～7日に長崎県の形上湾において西医体ボート部門の大会が開催された。滋賀医科大学端艇部は今年新入部員が13人加わり部員総数も33人となり、さらには九州の地で西医体があるということで大遠征となった。長旅ということでそれぞれの疲れや小さなことに対する不満なども出そうなものだが、新歓の時より続いているいい雰囲気のまま事故もなく会場に着くことができた。

ボート部の伝統的にいいところは全員がレギュラーとなり、練習のときからも丸となって勝利を目指しているところだ。その伝統を受け継いで今年もいいクラブができていた。滋賀医大端艇部のトップクルーであり代表である対校「飛騨」をはじめ、やる気に満ち溢れている一回生や現役を退いても協力してくれている五回生、そして現役部員はもちろのこと練習に励んでいた。春には数々の大会があり満足いく大会、悔しかった大会 どちらもそれぞれのクルーにおいてあったが、クラブ全体としてはどの大会も満足いけるものであった。

そのいい雰囲気ではあったが、この1シーズンいろいろとボートのために犠牲してきたのは、全てはこの西医体で「優勝」するためだった。ほとんどのクルーは最終日の決勝まで順当に勝ち進んだ。結果として代表的なものは、男子一般フォア優勝、男子ダブルスカル優勝・三位、男子シングルスカル優勝、女子クオッド4位、そして総合優勝を成し遂げることが出来た。もちろん漕いでいた本人たちの力もあるが、普段からサポートしてくれていたマネージャーの力も大きかった。また、何よりもこの端艇部にいる仲間が力が大きかった。本当にこの仲間を切り切り最高の結果を出したことを誇りに思う。

男子一般フォアの部優勝メンバー



左から(敬称略) 木内純、若宮卓也、森田大吾、高林健介、高村裕

これからは学内レガッタなどを通じてもっとさまざまな人にボートの良さを伝えていきたいと思う。もし興味のある人は気軽に近くの端艇部員に声をかけてください。

先輩から

一艇ありて一人なし

端艇部監督 森島正樹 (医7期生)

1980年に初優勝して以来、今回で通算11回目の優勝を飾れたのも、偏に顧問の野坂教授、初代監督の西村先生をはじめ、多数のOB・OG、マネージャーの皆さんの弛まぬ支援、協力の賜物と深く感謝の念に絶えません。勝利の陰には、8回の準優勝を含む膨大な数の敗北の山の中から「常に頂点を目指し、王者として君臨し続ける」という、創部28年来の伝統が連綿と受け継がれ、他の追随を許さぬ高度な技術と組織力、そして勝つ為のノウハウがあったからに違いありません。ボート一艇を優勝ラインに持って行くには、ロケットを飛ばすが如く多数の人のサポートが必要なのです。

財力、経験、OB・OGの数に勝る並居る伝統校を蹴散らし、トップを走る艇を「滋賀医大ファイト！」と応援する、このような活動を通して学生諸君の心の中に愛校心、自尊心が育まれんことを切に願って止みません。「他人より0.1秒でも速くボートを漕ぐことが、それ程大事なことなのか？」と思う人もいるかもしれませんが、しかし、ボートほど、協調性を要するスポーツも他に例がないと思います。医療現場においても、こういったスポーツで培われた協調性、体力、自己犠牲といった資質が試される場面に何回となく遭遇することがあるでしょう。そんな時、思い出して欲しいのです。母なる琵琶湖、母なる滋賀医大、母なるボート部で育ったことを。

最後に、ボートの有名な格言を「一艇ありて一人なし」

ハンドボール部

23年目の初優勝

副キャプテン 宮田 悠 (医4回生)

8月5日より福岡で行われた西日本医科学生総合体育大会で我が滋賀医大ハンド部は創部23年目にして初の優勝を飾ることができました。西医体優勝の目標を掲げて毎年練習してきたのですが、過去3年間の成績は3位、2位、4位と優勝には後一歩及ばないというのが僕たちの実感でした。特に一昨年のチームは秋リーグ・西日本医歯薬・春リーグと三連覇し、西医体優勝間違いなしと思われたにもかかわらず、決勝でライバルの京都府立医大に1点差で敗れてしまいました。昨年の夏も結局西医体では勝てず、どうしても西医体だけは優勝したい、という皆の強い気持ちで新しいチームがスタートしました。

今年は秋リーグではなんとか優勝できたもののその後は結果が実を結ばず、どうすれば西医体で勝てるのかを何度も皆で考え、色んな問題点が浮かびました。それの一つずつクリアすることでチーム全員が西医体優勝に自信を持てるようになりました。そんな中で大きかったのは心強いOB・OGさんの存在でした。練習に参加して下さる多くの先輩方のおかげで部員が少ないにもかかわらず紅白戦ができたわけですし、強くなったと言ってくれる先輩方のおかげで自信が確信になったのだと思います。

今後の目標はやはり西医体連覇です。今までの『初優勝を』、という目標よりは弱いようにも思われますが、その中で強い気持ちで練習に臨むことができるのが常勝チームへの一歩だと思います。これからも西医体優勝できるチームを作りたいと思いますので、ご声援のほどよろしく願います。



「勝つぞー！」試合前に気合いをいれて

勇気づけられるOB・OG

～西医体初優勝にむけてのメッセージ～

臨床検査医学講座 助教授

茶野徳宏 (10期生)



『初優勝』後の記念写真

滋賀医科大学ハンドボール部、創部23年目での西医体初優勝おめでとうございます。OBとしても、また、その瞬間に会場にいたものとしても、未だ非常に興奮する、かつまた、誇らしいことであったと思います。団体競技での優勝は、個人競技とはまた異なる難しさを備え、その分喜びも時には数十倍に増幅し、その感動はOBやOGにも深く広がってゆくものです。ここに至るまで、心身ともに鍛え抜いた現役の皆さんに改めて苦勞をねぎらうとともに、あわせて感謝も述べたいと思います。仕事(研究、臨床)をしていると、時に全くそれがうまくいかなかったり、うまくいっていたかと思っていたのに、その状況が全く急変する時があります。しかし、このような状況でも彼らが練習をしている姿、リードをされていて決してあきらめず、最後まで全力を尽くす姿をみていると、こちらの方がその姿に教えられ、生活、仕事に更には人生に勇気づけられることがあります。今は単にスポーツ、部活をしているように思っているだけかもしれませんが、座って講義を聞くより、よほど人間を磨いています。結果はいろんな出方をしますが、全力を尽くす姿勢は、それぞれ全て、現役各人、そして、OB・OGまでも磨き、そして、勇気づけています。部員の皆さんは“そんなこともあるんや”と頭の片隅に置いてもらえれば、それでいいのですが、また頑張る皆を勇気づけて下さい。今回は本当におめでとうございました、そして、ありがとうございました。

先輩から



三井住友VISAカードから同窓会年会費が払えます！！

一昨年来より進めてまいりました「三井住友VISAカードからの同窓会年会費の引落」が今年度から可能となりました。手続きは、簡単です！

- 1, 「湖医会」事務局にメール or お電話でご一報ください。
- 2, その後、三井住友VISAカードの番号をお聞きするためのお手紙を差し上げます。
- 3, 封書にてご返送いただいたカード番号を三井住友に照会し、承認を得ます。
- 4, 同窓会年会費の引き落とし額を「湖医会」事務局より三井住友に指示します。

上記の流れにて同窓会年会費の引き落としができます。

振込のお手間が少しでも楽になるのでは・・・ぜひ、ご利用ください。もちろん「湖医会」カードにご入会いただいても、結構です。

*ご不明な点は事務局にお尋ねください

平成 17 年度版 会員名簿

2003・2004・2005 年度 同窓会費の完納者のみに配布！
未納の方は早急にお振り込みください。

2006 年 2 月発行予定

『名簿資料』の書き込み用紙はお手元に届いていますか？
未提出の方は今すぐご記入の上事務局へ！

ご案内の通り、名簿には氏名・卒業期生以外に本人の同意を得られた次の項目が掲載されます。

勤務先名・勤務先部署・勤務先電話番号
現医局・所属した医局・メールアドレス

只今、入力作業中・・・

みなさんから返送された「名簿資料」を確認し入力しています。
今回住所変更が間に合わなかった方には申し訳ありません・・・

経費削減の観点から幹事会で、会員名簿のCD化も提案されましたが検討の結果、「例年通り製本で」になりました

湖医会奨学金、 ご寄付者一覧

医学英語教育ワーキンググループ

ありがとうございました。
心よりお礼申し上げます。



卒後 20 年

医学科 5 期生同期会が開催されました

9月10日(土) 琵琶湖ホテルで行われ卒業生 56 名と
恩師 6 名が参加しました。学内ミニツアーや大学近辺の変
貌ぶりをビデオで紹介したりとユニークな企画が催され、
好評でした。

この会での余剰金を、「湖医会奨学金」へ寄附してい
ただくことになっています。ありがとうございます。

開催予定！

2006 年 2 月 18 日(土)

18:00 ~ ・ 琵琶湖ホテルにて

卒後 10 年同期会

.. 今年は医学科 15 期生です

訂正とお詫び

湖都通信 48 号に同封しました
『情報フォルダー』に間違いがあ
りました、大変申し訳ございませ
んでした。お詫びして訂正させて
いただきます。

現教員

(誤) 松浦久嗣 辞職(開業)(2005.3.31)

(正) 杉浦久嗣 辞職(開業)(2005.3.31)

尚、現在名簿編集作業中につき、今回
『情報フォルダー』の発行はありません。

総会の 委任状はメール で! ... e-mail: koikai@koikai.org

10月26日(水)までに

本人と確認できた委任状はメールでも「正式な委任状」として認められることになりました。(2003年総会) ぜひご利用ください!

ご協賛
ありがとう
ございます

扶桑薬品工業株式会社 / ヤマサ醤油株式会社 / ゼリア新薬工業株式会社
株式会社日本医学臨床検査研究所 (順不同)